

きぼうのいえ ニューズレター



2018年春号

特定非営利活動法人 きぼうのいえ
〒111-0022 東京都台東区清川2丁目29番12号

電話: 03-3875-7523 Fax: 03-3875-7525
E-Mail: hibounoie777@br.nifty.com
ホームページ: <http://www.hibounoie.info>

あれから15年余

理事長 下条 裕章

2002年10月5日、玄関の前には多くの人々が集まっていました。山谷・すみだリバーサイド支援機構という名前の団体の活動がはじまって1年半、「きぼうのいえ」の4階建ての建物が竣工の日を迎えた時のことです。気がつけばもう15年以上のかかわりに。この「いえ」の歩みは、決して順風満帆、穏やかに変わりのない毎日ではありませんでしたが、愛情と思いやりに満ちたものでした。

「いえ」は、わたしたちを強風から守る屋根や建物を意味しますが、そればかりではなく、しばしばそれに関わるすべてを表すこともあります。それはそこに生活する人びとの共同体・家族、またそこにある財産や様々な人と人との関わりなど、見えるものと見えないものが縦横に組み合わせられながら作られてゆきます。「きぼうのいえ」は、そこに生活した人びとのいのちの輝き、そこに働くスタッフ、そして心を寄せて祈り支えてくださった多くのみなさまの温かな思いによって描かれ続ける作品のようです。

竣工の日、新しい建物を祝福する祈りとともに、「きぼうのいえ開設の宣言」が用意されました。

山谷・すみだリバーサイド支援機構は、一人ひとりに神から与えられた命がなによりも大切にされることを願って、多くの人々の善意と熱意によってその産声を上げました。そして、真実の和解と平和をともに願い求めます。これがわたしたちの希望です。

(中略 / 「平和の祈り」アシジの聖フランシスコ)

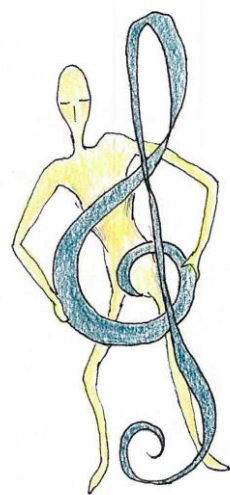
この希望をわたしたちが失うことがないように、祈りのひとときを持ちました。そして、ここに生活するすべての人々、ここの働きのために祈り、支援をしてくださる人々、また開設において尊い労力を惜しむことなく提供してくださった多くの人々の働きを、神への感謝のうちに覚えて、「きぼうのいえ」と名づけました。

全能の神が、ここに入るすべての人々を祝福し、その生涯を守り導き、永遠のいのちの喜びに導いてくださいますように。

2002年10月5日 きぼうのいえ竣工式の日

昨年5月、前任者に代わり、理事長の役をお受けすることになりました。これからも「きぼうのいえ」が描き続けてきた希望と祈りの心を大切にしながら、いのちの健康を取り戻すこの家・家庭・家族共同体としての営みがふさわしく続けられますよう、みなさまとともに歩んでゆきたいと思えます。

みなさまが思いをお寄せくださっていることに感謝し、「きぼうのいえ」を今後ともお支えいただきますようあらためてお願いいたします。



きぼうのいえの社歌(?) —ありがたや節

夕方5時をまわるころ、玄関から「ただいま〜！」と声がして、にぎやかな歌声とともにYさんが帰ってくる。Yさんは今年で90歳。きぼうのいえの「歌のお姉さん(おばあさん?)」である。元、浅草芸者。持ち歌は多い。十八番のひとつが「有り難や節」で、きぼうのいえの住人、スタッフから人気のある一曲だ。ことあるごとにリクエストして歌ってもらっている。歌詞の内容は「金がなければクヨクヨします、女にふられりや泣きます…」と、あまりありがたくないことを並べ、サビのところ「あ〜りが〜たやありがたや、あ〜りが〜たやありがたや」と威勢よく締める、というものである。Yさんは6番まである歌詞を空で歌い、我々はサビの部分を手拍子付きで大合唱。知らない人が聞くとまるでなにかの宗教儀式のようである。

お茶会で歌うことが多いのだが、亡くなりそうな仲間のWさんの部屋に集まって歌うことがあった。「Wさんの部屋でありがたやをやるよ！」と声をかけると、全スタッフ、ボランティアが、Wさんの部屋にかけつけて合唱したのだった。最近、出棺のときに誰となくリクエストをして歌ってもらうようになった。「…腹が減ったらおまんま食べて、命尽きればあの世行き…」の部分では、音頭をとっているYさんはいつも泣いてしまう。私たちが泣いてしまう。ありがたや節は、いまではきぼうのいえの社歌のようなものである。



全部あつて全部いい。

「全部あつていいんです」と答えてくれた。終わってから私が「いろんな音がいつぱんにあつておもしろかった」と言うと、キャロルさんは隣の部屋からはTVでやっている水戸黄門の主題歌が聞こえ、ハーブの調べとDさんの呼吸に混ざり合う。外からは、山谷のおじさんたちの元気な話し声、隣の部屋からはTVでやっている水戸黄門の主題歌が聞こえ、ハーブの調べとDさんの呼吸に混ざり合う。Dさんの呼吸に合わせてキャロルさんのハーブと歌声が部屋に満ちる。キャロルさんがDさんの部屋でハーブをひくひくしているのを、聞きに行きた。

※ キャロルさんはパストラルハーブの先生で、週に1回、きぼうのいえでハーブと声で癒しのボランティアをしてくれています。



オルゴールとラジオ

Hさんが亡くなるまでの数日間のこと。意識のないHさんのお部屋で聞こえる音のお話。ボランティアのWさんは、CDをかけて言いました。「もう現世を離れていくのだから、オルゴール曲がぴったりよ」スタッフのEさんは、CDを止めてラジオをつけると言いました。「Hさんは、ラジオを聞くのが好きだから」ボランティアのWさん、ラジオを止めてCDをかけ、「ニュースなんか聞いたら、この世に執着しちゃう」スタッフのEさん、CDを止めてラジオをつけて、「お昼のニュースを聞いてもらわなくちゃ」

—以下、繰り返し—

かくして、Hさんの部屋に行くたびにオルゴールの音色とラジオのニュースが交互に聞こえたのでした。

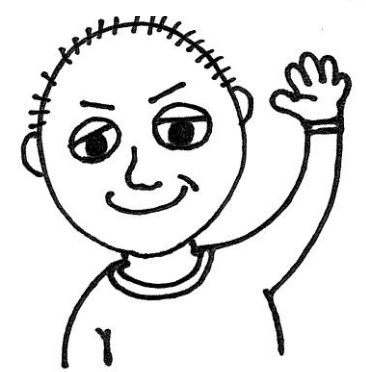


オルガン弾きたさに...

オルガン弾きたさに、ひとりつたい歩きで来たもよう。談話室では入居者のEさんが、ここにこしながらKさんの演奏を聞いている。車いすで入所したKさん。ある日談話室からオルガンで聖歌が聞こえ、見るとKさんが、弾いている。



Aさんがやってくる。仁丹ソングを歌いながら。——事務所で聞く、ひとびとの足音や吐息



Nさんは元プロのジャズマン。バンドでドラムを叩いていました。お部屋のCDラジカセからはいつもジャズが流れていて、Nさんは長年愛用のドラムスティックを手に、布団の上でリズムをとるのでした。ルパン3世のテーマ曲をジャズにアレンジしたCDがお気に入り、「これは名演だよ」と言っでは、自分も演奏に参加するかのようスティックを振るうのでした。

最期が近づき、意識がなくなってからも、枕元でジャズを流すと手だけは音楽に合わせてリズムを刻んでいました。亡くなったあともスティックだけは手から離さず握りしめていた—そう記憶しています。 **死んでもバチを離しませんでした**

なにじじいかというと…

めずらしく忙しい夜、Sさんのオムツを急いでとりかえていた。半身麻痺のSさんを少し乱暴に動かしてしまったかな、と思い、「Sどん、ゴメン。私ってムリクリばばあだったね」と声をかけると、Sさんは大笑いしてくれた。

私は調子にのって、「私がムリクリばばあなら、Sどんはなにじじい？」と聞いた。Sさんは間髪入れずに、「スケベじじい！」

あとから、他のスタッフや往診の先生にこの話をするすると皆笑って「Sどん、わかってるね！」



お 知 ら せ

任期満了にともない理事が選任されました。新理事会の構成は次の通りです。

理事長 下条裕章

(聖公会司祭 聖パウロ教会)

副理事長 渡辺義明

(日本キリスト教団牧師 板橋泉教会)

理事 吉水岳彦

(浄土宗僧侶 浅草山谷光照院)

理事 藤堂千浪

(事務局長)

理事 中川竜

(施設長)



これまで何件かお問い合わせをいただいておりますが、「ハートウェアタウン山谷ホールディングス」「カトリック・ヨセフ・ピタウ大司教記念福祉館」など、山本雅基氏が代表者となっている諸団体・諸活動と、きぼうのいえは一切関係ありません。

きぼうのいえ理事長 下条裕章

前号でお知らせした通り、遺贈寄付をいただき、きぼうのいえ設立に伴う借金を全額返済することが出来ました。また、このたび900万円の匿名寄付をいただき、これは修繕工事等の基金に充てることにしました。ここに感謝とともにご報告申し上げます。



きぼうのいえでは、私どもの活動にご賛同頂ける皆様方に、ご支援・ご寄付をお願いしています。

振り込み方法は ①郵便振替、②銀行振込み、③インターネット募金 の3つがあります。

きぼうのいえの運営へのご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

※ご送金にあたってのお願い：ご支援・ご寄付をくださった方がたのお名前の公表の可否をお伝えください。

① 郵便振替の場合

郵便振替番号:

00190-6-388670

名義:きぼうのいえ後援会

② 銀行振込の場合(※1)

みずほ銀行 三ノ輪支店 普通

口座番号:1284037

名義:特定非営利活動法人きぼうのいえ

③ インターネット募金

ホームページからアクセスして、

カード決済することもできます。

<http://www.kibounoie.info/index.html>

● ※1 銀行振込の方で領収書が必要な方はメール等で連絡先をお知らせ下さい。